

くり返される土砂災害 紀伊半島-平成23年と明治22年



平成23年の土砂災害

平成23（2011）年8月に発生した台風12号は四国に上陸し、北上して日本海に抜けました。広範囲で記録的な豪雨となり、特に紀伊半島では一部で2,000mmを超える雨量となりました。

紀伊山地で、山間地の河川氾濫、がけ崩れ、地すべり、土石流が多数発生しました。この災害は、紀伊半島大水害と呼ばれることもあります。



主な災害発生箇所（近畿地方整備局）

平成23年の河道閉塞



深層崩壊とそれによる河道閉塞
（●の場所：近畿地方整備局）



平成23年災害の自然災害伝承碑
（●の場所：地理院地図）



（地理院地図）

河道閉塞発生場所の一つ
[地理院地図](#)による3D表現
現在は排水されています。

明治22年の土砂災害

明治22（1889）年8月に、台風に伴う豪雨で、紀伊半島で大きな被害が生じました。この災害も多数の深層崩壊や河道閉塞が特徴でした。この災害は、紀伊半島大水害、十津川大水害と呼ばれることもあります。

明治22年の河道閉塞



十津川で河道閉塞が生じ、川の水が逆流して上流の集落に被害があったことが述べられています。（●の場所：[地理院地図](#)）



十津川の河道閉塞により出現した湖
（奈良県ホームページ）



自然災害伝承碑の分布（地理院地図）

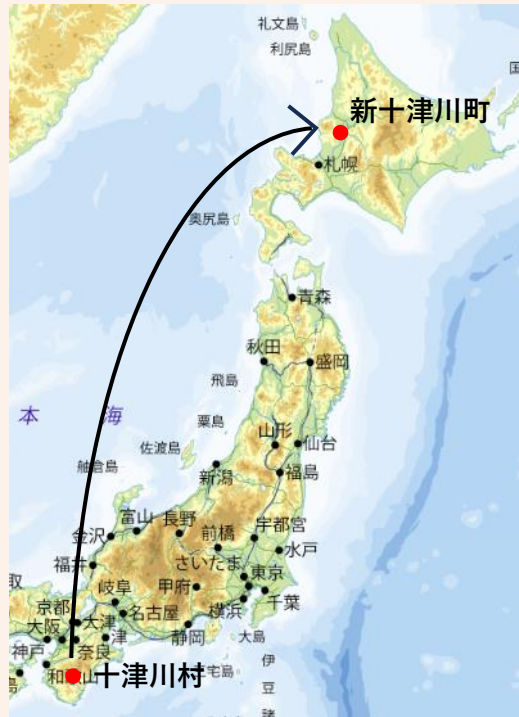
平成23年の災害は、
どうして明治22年
の災害の再来と言
われたのかな。
2回の災害で共通
のことはなんだろ
う。



明治22年土砂災害後 北海道への移住

明治22年の土砂災害後の出来事

大きな被害のあった奈良県十津川村では、生活の基盤を失った多数の被災者が集団で北海道に移住し、過酷な生活をしながら原野を開拓して、現在の新十津川町を築きました。



(地理院地図)

新十津川物語 津田フキの像	
概要	
碑名	新十津川物語 津田フキの像
災害名	明治22年紀伊半島大水害 (十津川大水害) (1889年8月19～20日)
災害種別	洪水・土砂災害
建立年	1990
所在地	奈良県吉野郡十津川村大字小原225-1
伝承内容	明治22年(1889)8月18日から20日にかけて、十津川村は未曾有の豪雨に襲われ、死者168名に及ぶ大被害をこうむった。このため、被害を受けた住民のうち600戸2,600名は北海道移住を余儀なくされた。このことを描いた児童小説「新十津川物語」の主人公津田フキは9歳まで十津川村で育った。
制限事項	
ID:29449-003	



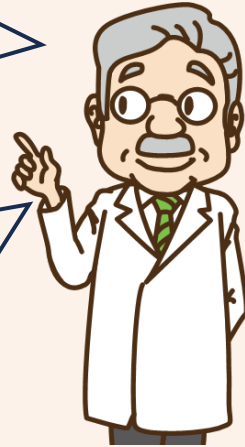
(地理院地図)

新十津川物語 津田フキの像

十津川村の住民が未曾有の豪雨に見舞われ、北海道移住を余儀なくされたことが述べられています。

北海道には、なぜ十津川という名前の自治体があるのかな。

北海道の開拓は、屯田兵により明治8年から進められていたよ。



(新十津川町ホームページ)

北海道での開拓

およそ600戸2,500人が移住して原生林を開拓しました。

明治22年8月の災害で被災した十津川の多くの住民は、生活再建のため別の地への移住を決意、10月に出発して北海道に渡りました。彼らは狭い屯田兵屋で暮らしながら雪解けを待ち、翌年6月に石狩平野の入植地に到達しました。彼らはこの地を故郷にちなんで「新十津川」と名付け、冬の寒さなどに苦しみながらも、原始林を開墾して農村を築きました。北海道の新十津川町は奈良県の十津川村のことを今も母村と呼び、住民の交流が盛んです。